



昭和100年

時代は、希望と諦めを従え、浮沈を繰り返し、紺藍の水面は泰然と移ろいで行く。乗り遅れないでといったげに、でも岸辺のにごりに未だ、昭和の明滅を抱きながら…。

詩人（立原道造）の欲した

透き通った光

立原道造が設計し65年後にその図面をもとに有志が建てたヒヤシンスハウス。秋にはメタセコイヤの秋色が湖面を染め上げる。

5坪ほどの狭い空間にも関わらず、何処からも自由に出入りできる、そんな錯覚を想起させる。圧迫という感覚とは一切無縁だ。そこには自然を招き入れ、時には抗いながらも、決して光と風から背を向けない彼のしなやかな設計思想が、四季をすべて抱え込むくらいの大さで内包されている。

この時代に彼が存命であればという、届かぬ願いがため息となって口元から漏れる。昭和の色彩そのままに佇む建物にさざ波と遊ぶ光の粒は、天折した彼の無念をつまびき、ぬくもりへと変えていた。



秋の陽光を浴びるヒヤシンスハウス

昭和の速さについて

日本特有の畳、障子、軒、敷居、縁側などなど、今や新築で見かける事は稀と言っても過言ではありません。日本人の遺伝子に寄り添う心地よい速さって、誰もが無意識に体感していたような気がします。近年住宅から排除されていくこれら日本の速さを女子部では哀惜を込め、復権？を願う考えをしてみました。



右／雨だれ
左／線香花火

- ①襖・障子を明け閉める速さ
- ②広縁から見上げる打ち上げ花火と、花火が開いて光が落ちていくスピード
- ③軒先を落ちる雨だれ
- ④霜柱が溶ける時間
- ⑤線香花火の瞬き
- ⑥手から零れ落ちる幸せ
- ⑦世の盛衰
- ⑧桜の花びらが舞い散る速さ
- ⑨ホタルのおしりの点滅
- ⑩山を下る紅葉のはやさなど…

変貌していく昭和の速さ、失った日本の速さは他にもたくさんあるはず。便利を旗印に、コスパ・タイパと消費の頂点に向けてひたすら上りつめたつもりが、築き上げてきた昭和を同じ速さで蕩尽してきたように思えます。

時代って何？取り込みながら置き去りにして、変節していくエネルギーって何？いろいろ考えているうちに、どこまでも狭まっていく速さの間隔に、一抹の不安を覚えるのは私だけでしょうか？

（井出）

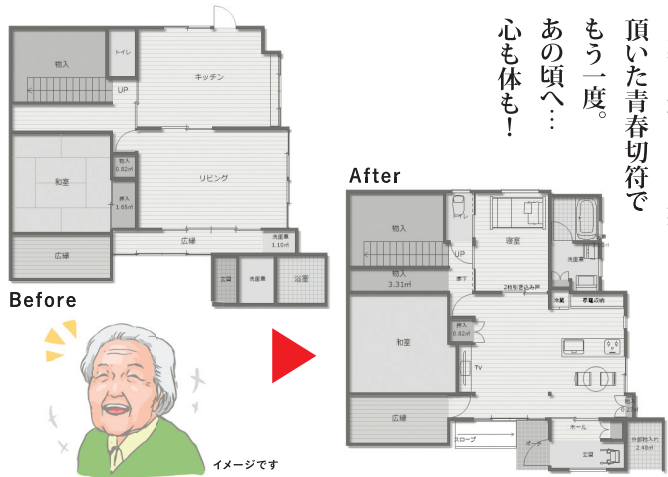
昭和の家に昭和生まれのおばあちゃんが
懐ましく暮らしていました

加代さんの 元気はつらつ 青春切符

加代さん（仮名）は御年85才。ちょっと耳は遠いが、若いころスケートで鍛えた足腰は今でも健在。家は築60年。洋間一に和室5部屋、10畳のキッチンと、まさにTHE昭和のたたずまい。この家をリフォームしようとしたら、片付けや工事中の不自由・費用等、煩雑な段取りを考えれば、寒くともトイレが遠くてももう何とせん、というのが当然の判断だと思えます。

母が一人で住んでいる今の家を、リフォームしたいと娘さんからの電話からこの奇跡の工事が動き始めます。キッチンとお風呂・リビング・トイレを改修。ついでに暖かくとのご要望でした。加代さんだけでは決断できなかった工事。思いやり、心配しすぎは昭和のなごりかもしれない。どんなに時代が変わってもこの想いだけは不変であってほしい。

リビングには加代さんがリンクを滑る勇姿が飾られる。娘から頂いた青春切符でもう一度。あの頃へ…心も体も！



イメージです

参加者募集

「DIY教室のお知らせ」

自分だけの本棚を作ろう

ページを繰るスピードって人それぞれ。私は昭和っぽい速さで？読んでいます。電子書籍も普及していますが、女子部はもちろんBOOK1点押します。今回大切な本を仕舞う本棚を、自分サイズで、デザインでつくってみませんか？

- 日時 9月6日（土）
- 時間 AM9時～完成まで
- 場所 国実事務所
- 参加費 500円 ■募集人員 5組
- 締め切り 9月5日（金）
- 申し込み先 ☎0267-64-1822（土屋まで）



完成イメージです

人口知能に 聞いてみました

底のない家って
どう思います？
意外と真つ当な答えに…エツ!!

軽井沢事件簿…
驚愕の対応に
怒り心頭！
設計士は
神か？
暴君か？

（僕の作品）と言い切るその厚顔無恥に
まわりつく（井の中の蛙）感

女子部現場見学会

ピンクのヘルメット。上履き持参で
現場での安全・施工・清掃、研修です。

基本は現場
気づきも現場

エアコンジャンジャン
使うための豆知識
温度一度上げると500円～1000円節約。
強風・除湿機能の使い分け。

